

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア さぎぬま第1教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<p>・職員のヒヤリハットの報告を通して、拠点内の危機管理や児童の安全管理の認識が高い。</p>	<p>・備品の配置など軽微なものから、職員の動きやプログラムの内容に至るまで、事故やトラブルになりうる事象を翌出勤日までにヒヤリハット報告書として提出している。 提出された内容を、責任者がチェックし、対応方法を検討実施している。</p>	<p>対応までのスピード感を意識するために、責任者のヒヤリハット報告書の確認と対応方法の検討を報告日にするよう実施する。</p>
<p>・保護者様のニーズ(送迎時間や場所など)に応えることができています。</p>	<p>・翌月の下校時刻の確認を徹底しており、事前に早下校の可能性がある日は保護者様に送迎について調整の連絡をしている。 ・保護者様からの連絡(LINEや電話)があった際は、可能な限り当日中に処理している。</p>	<p>当日中の送迎の変更連絡にどの職員でも対応できるように、送迎時間や送迎場所、引き渡し方法の再周知と確認を定期的に行う。</p>
<p>ソーシャルスキルの支援の充実</p>	<p>・毎日、15分ほどのソーシャルスキルの時間を設けている。マナーを学ぶ時間や人前で発表する時間、相手の良いところを伝える時間などを提供している。</p>	<p>・保護者様や関係機関との連携を通して、どのようなソーシャルスキルを伸ばしてほしいかを募り、それに沿った内容を提供する。</p>

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
<p>お子様にとって分かりやすく安心して過ごせる環境（構造化された環境・物理的・心理的な安全）が整っていない</p>	<p>拠点の設備の不調が相次いでおり、不調が起きてからの修繕依頼となっている。 使用年数を考慮した点検、事前把握が不足している。</p>	<p>定期的な拠点の設備の点検を行う。 使用年数が長い設備はあらかじめ把握しておき、不具合の起こる可能性を予見して店舗開発課に報告をする。</p>
<p>・児童の特性や年齢、個別支援計画に沿った支援の実施。</p>	<p>モニタリング時や個別支援計画作成時、他の関係機関との会議の後の職員間の情報共有不足と認識の不一致。</p>	<p>児童の情報の更新や共有があった際は、朝礼、終礼、担当者会議を通して共有を行う。</p>
<p>・内部監査や運営指導の内容を職員にも理解できるように共有できていない。</p>	<p>・内部監査の定期的な監査の結果をどこが不足でどう改善すべきかが共有できていない。 ・共有できていても、職員全員が理解できるように噛み砕いて共有できていない。</p>	<p>・監査の結果を共有し、どこを改善するべきかを噛み砕いて共有する。</p>